

国道 254 号和光富士見バイパス事業認定取下げ説明会開催結果

開催目的

令和3年3月に申請した土地収用法に基づく事業認定の申請取り下げについて、取下げ理由及び今後の予定について説明会を開催しました。

実施方法

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、接触機会の少ない「オープンハウス形式」で実施しました。

※「オープンハウス形式」とは、パネル等の資料を自由に閲覧していただき、個別に説明や質疑に対応するものです。

開催結果

日付	時間	会場	参加者数
令和4年10月14日(金)	18:00~21:00	朝霞市内間木公民館	8名
令和4年10月15日(土)	9:00~12:00	志木市総合福祉センター	30名
	13:30~16:30	朝霞市内間木公民館	14名
令和4年10月17日(月)	18:00~21:00	志木市総合福祉センター	23名

合計75名

主な質疑 (○：質問、●：回答)

【事業認定の取下げについて(理由、時期、今後の予定)】

○さいたま東村山線の認定範囲については、手続きの間違いということなのか。

●起業者の考え方としては、県道さいたま東村山線は道路幅18mに拡幅する計画として都市計画決定をしているため、将来的な整備も勘案し、都市計画道路幅を事業認定範囲として申請しました。しかし、土地収用法に基づく事業認定は、今回申請している事業により整備される交差点から現道に擦りつく範囲であり、申請範囲に誤りがあったものです。

○事業認定の取下げの時期はいつになるのか。また取下げた後はどうするのか。

●取下げ時期についてはこの説明会終了後に行う予定です。またその後は、申請内容の変更し、再申請の手続きを進める予定です。

○再申請はいつ行うのか。

●申請内容の変更後に手続きを進める予定ですが、詳細な時期については未定です。

○再申請で道路の形状は変わるのか。

●JR 武蔵野線の交差形状が嵩上式から地表式に変わります。あわせて JR 武蔵野線交差部の幅員が一部変更となります。

○都市計画変更手続きは、事業認定手続きと同時並行で行うのか。

●同時並行で進めていく予定です。

【事業認定について】

○事業開始して50年近くたっているのになぜ今頃になって収用手続きを行うのか。

●用地取得の状況や工事の進捗状況などから、早期の供用に向けて事業認定の手続きに入ることにしたものです。

○土地を取得するのに事業認定を行うことに反対である。土地を強制的に取ることに賛成しない。

●事業認定申請を再度行うこととしていますが、御協力いただけるよう引き続き交渉を行っております。

【整備時期・開通時期】

○部分開通・全線開通の時期は。

●さいたま東村山線までを令和5年春の開通を目指しています。全線開通について具体的な時期は示せませんが、早期開通を目指してまいります。

【254 バイパスと既存市道との交差、横断箇所に関すること】

○大小合併樋管付近の横断はどうなるのか。志木市道 2117 号線とさいたま東村山線までの間の横断は出来るのか。

●現在工事箇所内を通行している仮道の箇所に手押しボタンの信号を設置します。志木市道 2117 号線とさいたま東村山線までの間でバイパスを横断できる箇所はありません。志木市道 2117 号線も平面では渡れません。横断歩道橋を利用又は交差点の利用をお願いします。

○朝霞市内の交差点箇所はどこになるのか。市道とのバイパスの接続はどうなるのか。

●現時点では設計中ですが、交差点は、県道朝霞蕨線、朝霞市道 2077 号線、志木市の新宮戸橋通りの3箇所を想定しています。その他の既存の市道とバイパスの交差部は交差点形状ではありませんが、バイパスに接続させる予定です。

○県道さいたま東村山線から宮戸橋通りまでの区間で横断できる箇所は。

●さいたま東村山線、宗岡環状線、宮戸橋通りとの交差部に交差点を整備する予定です。その他の場所では横断できません。

【254 バイパス整備に伴う周辺への影響について】

○部分供用することによって県道さいたま東村山線が混雑し、動かなくなるのでは。

●部分供用に伴い志木の市街地に不要な交通の流入を防ぐ対策としては、上り車線は1車線のみ通行とし、国道463号の立体の手前から区画線で国道463号方面に誘導します。また、さいたま東村山線との交差点では、出来る限り早くバイパスに流入させるため、下り線は2車線の右折帯を設けるなどの対策を行います。

○農地が道路になると保水機能がなくなり冠水が心配だ。どのような対策をとるのか。

●バイパス完成後は道路上に降った雨は道路側溝等流れ、志木市の雨水排水路に流入するため、原則民地や市道への流出はないようにします。

○254BPによりさいたま東村山線の交通量はどうなるのか。交差点の南側の横断はどのようになるのか。

●全線開通時にさいたま東村山線や秋ヶ瀬橋の交通量は減少する推計結果となっています。交差点の南側は横断歩道を予定しています。

【用地に関すること】

○用地買収率は。何件の未買収地があるのか。

●和光富士見バイパス全体で97%、第2期整備区間で96%となっております。個人が特定される可能性があるため、未買収の件数についてはお答えできません。

10/14 朝霞市内間木公民館



10/15 志木市総合福祉センター



10/15 朝霞市内間木公民館



10/17 志木市総合福祉センター

